

おわりに

千曲市の素晴らしい自然環境を将来のこどもたちに残そうと、環境基本計画をつくることになりました。計画をつくるにしても、従来の行政（千曲市）がつくるのではなく、市民が主体となってつくることになりました。このための市民委員会を立ち上げることになり、市民から広く募集され、20人の環境に関心のある市民が手を挙げました。ちょうど男性、女性が半々ずつで、市内全域から応募があり、この20人で取り組むことになりました。

最初の自己紹介で、それぞれがこの千曲市の将来について、自分の思いを、夢を熱く語ったことが印象的でした。その中で多くの委員が「自分が今できることをやっていきたい。」と決意を述べられました。

平成16年10月から20人の市民委員と千曲市との共同作業が始まりました。

月1回の委員会を基本に、ワークショップ、先進事例の視察、自然観察会の実施、希少種の発見、マイバッグ（買い物袋持参）調査と精力的な作業がすすめられました。委員会は、議論が白熱し、予定時刻を常にオーバーして行われ、4～5時間を経っても意見が止まらない日もありました。更に、自然環境部会、社会環境部会の2つの部会にわかれ、掘り下げた検討や現地調査が行われました。

また、いつでも集まれる、資料はいつでも見れる、いつでも作業ができる、「場」が欲しいとお願いし、空いている埴生庁舎を借りることができ、大変重宝しました。毎週水曜日は午後1時～9時まで来れる人は、集まり、自分の意見を出し、どんなプロジェクトを行おうかと話し合いがなされました。

一般市民の方にも来ていただき、意見を出してもらうように、広くPRし、市民環境センター的な「場」としても使われました。

計画は市民がつくったものらしく、言葉がやさしく、また、「ずく」とか「もったいない」といった身近な言葉も使われ、親しみがあります。

計画の素案について、市内14箇所で地域説明会（環境問題懇談会）が開かれ、市民委員も出席し、質問に自分の実践事例をふまえて答えるなど活発な懇談が行われました。

今後、この計画に沿って、市民と事業者と千曲市が一体となって取り組むことが重要です。一人でも二人でも、「ずく」を出してやることで、少しずつその輪が広がり、将来、市民みんなが主役となることを願って止みません。

終わりに、計画策定にあたり、精力的に活動された市民委員の皆さん、コーディネーターとして、ご協力いただいた株式会社公害技術センターの皆さん、関係者の皆さんに厚くお礼を申し上げます。

千曲市環境基本計画策定市民委員会
委員長 柿崎 久